

進路通信

5月15日

学部・学問情報

◆ 経済学…お金と人間・社会との関係の本質を探る

【学問の内容】

経済学は、生産・消費・売買など、経済活動に関わること全般が研究テーマです。経済に絡むさまざまな出来事の中に見えてくる、お金と人間・社会の関係の本質部分を引き出していきます。そのために経済学では、経済に関わる出来事を理論化したうえで、その法則を見つけ、検証しながら実際の社会に役立てていくことが求められます。例えば、利益を上げていた会社が不況で倒産する、海外の工場で生産するため国内の産業が停滞する、といった出来事をとらえ、それらを数値などに置き換えて、これまでの経済の法則に当てはめながら研究を進めていくのです。

社会の変化に沿って、経済学が扱う分野も多様化してきています。社会の国際化という面を見てみると、貿易の拡大や企業の海外進出が随分行われてきました。それに伴って起こる海外投資の問題などは、経済学の守備範囲になります。また、地球環境という一見別の学問分野に見えるテーマも、資源の枯渇、自然破壊といった大きな問題がかかわっており、ここでもその資源を使った生産や消費などは、経済学が取り組む問題なのです。

【卒業後の進路】

実学志向が強く、就職難の中でも、文系の他分野に比べると就職に強いと言われる。銀行、証券、保険などの金融や、商社、流通、メーカー、IT関連企業など、さまざまな業種に進出している。また、公認会計士や税理士、中小企業診断士などをめざす人も比較的多い。

◆ 経営・商学…経済学の理論を現実の社会に応用する

【学問の内容】

経営・商学は、生産・消費・売買といった経済活動について、基本的な理論から実際の市場調査まで幅広く学ぶ学問です。現実の企業の経営活動と市場の流通システムに即した実務的な学問です。研究は主に三つの分野で行われます。まず「経営学」では、企業を経営するにあたっての原則と理論を中心に研究します。研究対象は企業だけでなく、行政機関や病院、学校などの経営についても研究しています。「会計学」は、企業が正しく運営されているかを測るための理論と方法を学びます。「商学」では、取引のための制度やメカニズム、取引の方法を研究します。金融・証券・流通・マーケティング(市場調査、広告宣伝等)などを対象としています。

経営学・商学は経済学に比べると応用を重視した学問といえるでしょう。グローバル・情報社会といわれている現在、経営学・商学では、企業のグローバル化とそれに伴う国際的な営業活動のあり方や、ITを経営にどう生かすかといったテーマが注目を集めています。

【卒業後の進路】

学習内容がどんな職場でも生かせる部分が多いので、銀行、保険会社、商社、メーカーなど就職先は多彩。また、公務員、コンピューター関連企業への進出も増えている。公認会計士や税理士などの資格を取って独立を目指す人も多い。